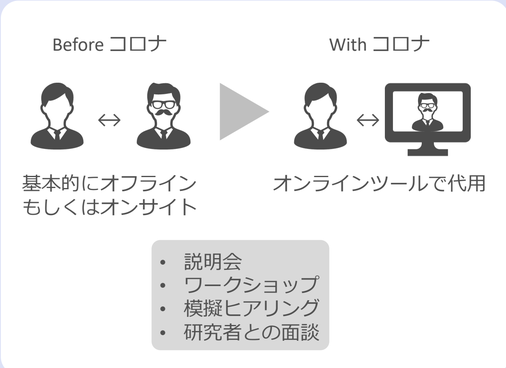
京都大学
KYOTO UNIVERSITY

コロナ禍におけるオンラインイベント実施の取り組み

○菅井佳宣、田上款、大西将徳、豊田裕美、川口利奈、伊藤健雄（京都大学 学術研究支援室）

◆ 背景

新型コロナウィルス感染症の拡大により、研究支援の現場でも様々な面で制約を受けている。このような状況下で、オンラインツールを用いた面談やイベントが直接対面の代替として実施されているが、ノウハウや効果に関する知見は限られている。



本発表では京都大学学術研究支援室（KURA）が主に2020年春～夏に実施したオンラインでの申請支援活動と、これまで工学研究科を中心に開催してきた説明会のオンライン化に関して取り上げる。

【オンラインでの申請支援活動】

1. オンライン説明会　：科研費等制度説明会、工学研究科対象説明会
2. 説明会以外の支援　：学振特別研究員支援、覆面対談会、模擬ヒアリング
3. オンライン面談　：各種申請支援時

1. オンライン説明会

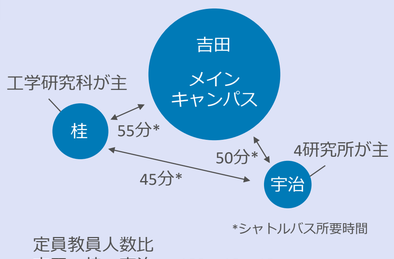
毎年4月に科研費 研究活動スタート支援（研スタ）公募要領等説明会を開催していた。

また、KURA工学研究科担当チームは研究資金獲得に関する説明会を工学研究科がある遠隔キャンパス（桂キャンパス）で毎月開催していた。

2020年度は上記説明会を全てオンラインで開催した。

使用アプリケーション：Zoomウェビナー
運営体制：説明者1～3名、運営補助1～3名（最小運営人数2名）
配信方法：マイクオン、カメラは冒頭と最後のみオン/説明時はオフ
視聴者の参加方法：マイクオフ、カメラオフ
質疑応答の方法：
Q&A機能を使用し質問をテキストで打ち込み、口頭で回答する形式が主
質疑応答用人員を揃えられる場合はテキストで返答することも

カテゴリ	内容	2020年度 参加者数※1 開催日時	2019年度 参加者数※1 開催日時、場所	備考
科研費	研スタ 公募要領等説明会	71名 4/10 11:00-12:00, 4/13 11:00-12:00 オンライン	108名 4/10 11:00-12:00, 4/15 18:00-19:00 @吉田キャンパス	2020年は準備が間に合わず広報期間が短縮
工学説明会シリーズ	CRESTさきがけACT-X 説明会	107名 4/15 11:00-12:00 オンライン	49名 4/19 16:00-17:00, 4/22 16:00-17:00 @桂キャンパス	2019年は吉田キャンパスでも同説明会を開催し84名が参加
工学説明会シリーズ	民間財団助成説明会	90名 5/26 16:00-17:00, 5/27 14:00-15:00 オンライン	27名 5/28・29 16:00-17:00, 5/29 10:00-11:00 @桂・宇治キャンパス	
工学説明会シリーズ	JST創発事業説明会	189名 6/9 10:00-11:00 , 6/12 13:30-14:30 オンライン	相当する説明会なし	
工学説明会シリーズ	民間財団助成覆面対談会※2	54名 8/24 16:00-17:00 オンライン	相当する説明会なし	視聴範囲を桂および宇治キャンパス研究者に限定



※1 2020年はオンライン開催、2019年はオフライン開催
※2 詳細は後述

参加のしやすさから開催方法は好評で、アフターコロナにおいてもオンライン開催を望む意見が大多数だった（オフラインのみの参加を希望する回答は全体の1%程度）。

工学研究科のみで開催していた説明会をオンライン開催したことで参加者の間口が広がり、前年度比で参加者数が3倍以上増加した（平均32.4名 → 110.0名）。

<見えてきた利点>

視聴者の参加のしやすさの点で大きなメリットがあった。

Q&A機能を使用することで、質問の焦点が明確になり散漫な議論を避けられる点で質疑応答がスムーズになった。

<課題>

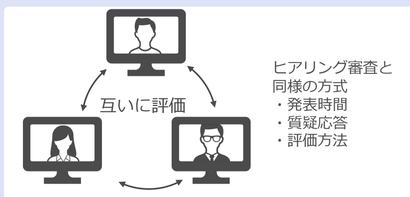
オフライン説明会では個別に会話をしやすかったが、オンラインではメールでのやり取り等で個別相談のハードルが上がった。

アンケートの回収率が低く、フィードバックを得られにくい（オフライン時：70%以上、オンライン：最大約50%）。

2. 説明会以外の支援

【学振 特別研究員申請支援】

オンライン上で模擬ヒアリングを行い申請者同士で相互評価した。



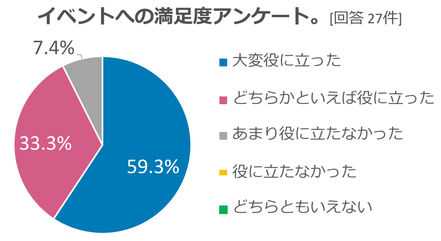
審査委員の視点を経験することで気付きを得る

6名が説明会に参加、3名が相互評価に参加

【民間財団助成 覆面対談会】

オンラインツールでは設定を工夫することで容易に**匿名のイベント**をセッティングすることができる。この特徴を活かし、民間助成財団の審査員経験者および採択経験豊富な研究者の覆面対談イベントを開催した。

- ウェビナーで開催
- 審査員経験者3名が登壇
- 匿名表示＋カメラオフ設定により覆面登壇
- コンプライアンスに配慮



→「覆面でのオンライン開催により、登壇者から正直な話が聞けたように思う」等意見や満足度アンケートから、期待された効果が得られた。

【模擬ヒアリング】

科研費 大型種目やJST事業のヒアリング審査対策として、大学事務組織とKURAが協力しオンラインでの模擬ヒアリングを実施した。

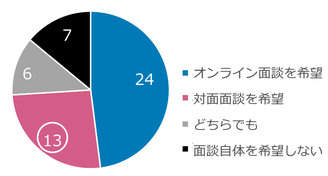
→オフラインと同様の模擬ヒアリングが実施可能だった。

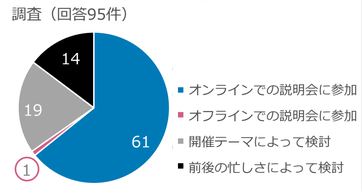
3. オンライン面談

科研費やJST事業などの申請支援時に研究者とオンライン面談を実施した。

実施しやすい（スケジュール調整、遠隔地からの参加）というメリットが見えてきた一方でアンケートから意思の疎通に関して課題も見えてきた。

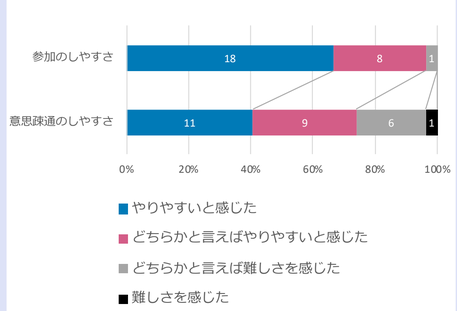
申請支援を受けた研究者に対する、次回はオンラインと対面面談のどちらを希望するか、アンケート調査結果





説明会はオンライン実施が望まれているが、面談は対面を希望する意見が一定数ある。

同じく、オンライン面談のしやすさについてのアンケート調査結果



意思の疎通に課題がある？

オンライン面談時のノウハウを共有し、質の向上に取り組む。

◆ まとめと今後の課題

- オンライン支援はアクセスのしやすさで強力なメリットがあった。
- 密なコミュニケーションを行うためには工夫が必要な場面があることもわかってきた。
- アフターコロナに向け、オフ/オンラインそれぞれの強みを生かした支援を模索する(ハイブリッド開催、匿名イベントの充実、等)。

- その他、研究者からはウェビナー開催のノウハウ提供のニーズもあるため、研究者向け実施方法マニュアルの作成も進める。